

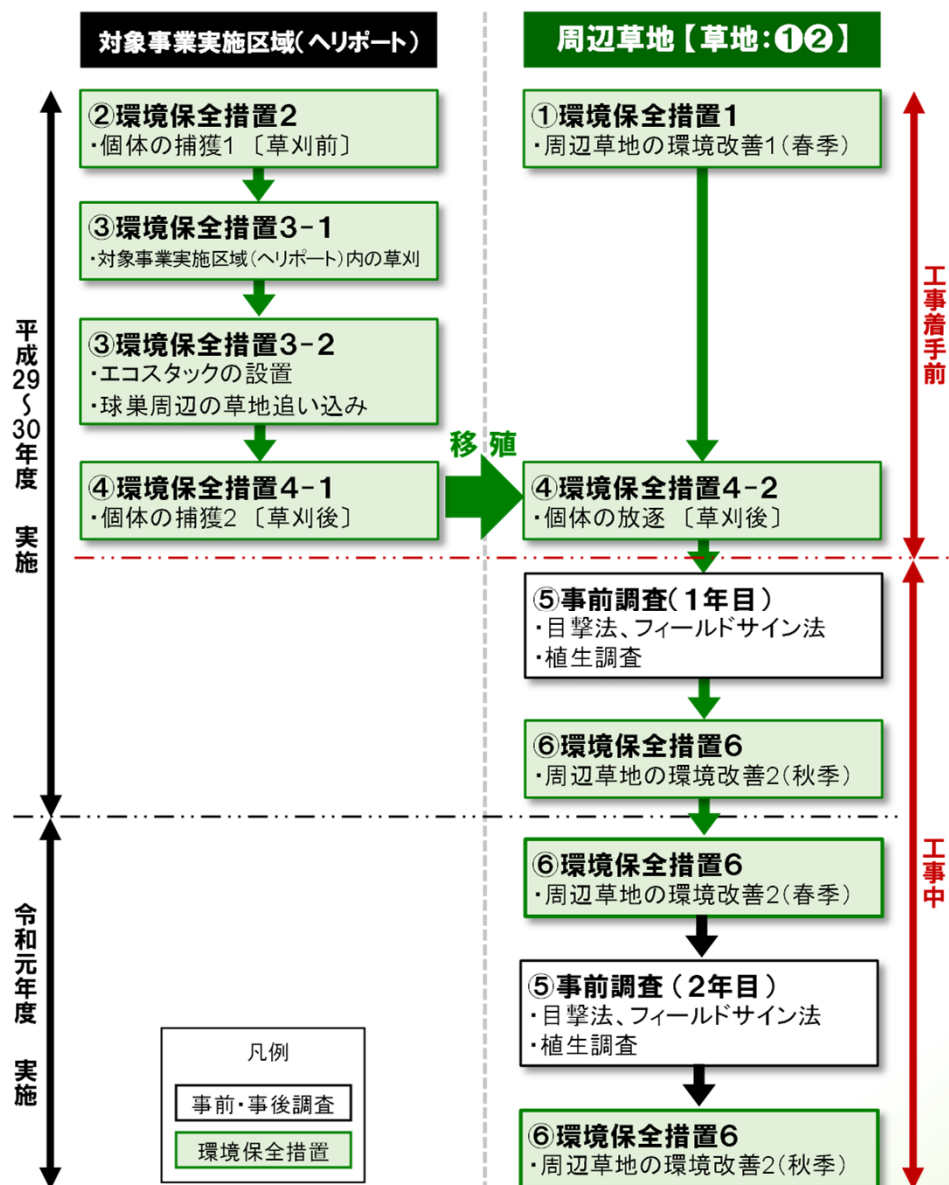
環境保全措置及び事前調査結果について

- 飛行場の存在に係る動物については、対象事業実施区域（ヘリポート）内の生息・営巣環境が消失する。
- 環境保全措置の目標達成のため、予測の前提として見込んだ環境保全措置のうち、対象事業の実施による影響を低減するため、事業者が実行可能な環境配慮事項を検討・実施した。

飛行場の存在に係る動物の環境保全措置〈評価書記載事項〉

影響要因	飛行場の存在
環境保全措置の方法 及び実施の内容	(1) 環境改善 対象事業実施区域の周辺草地（カヤネズミの球巣が確認されたチガヤ群落等）の環境改善を行う。 (2) 捕獲・移殖 適切な時期に可能な限り対象事業実施区域内に生息するカヤネズミの個体を捕獲・移殖に努める。 (3) 誘導 工事着手前までに対象事業実施区域の周辺草地へ誘導するように草刈りを実施し、カヤネズミの自主的な移動の促進を図る。
環境保全措置の効果	動物に対する生息環境の消失の影響の低減効果がある。
当該措置を講じた後の 環境の状況の変化	生息環境の消失の影響が抑制される。
効果の不確実性の程度	効果が確実に期待できる。
実施に伴い生ずる恐れ がある環境への影響	なし

陸生動物（カヤネズミ）の環境保全措置の手法



(1) 環境改善(除草・草刈)

- ・周辺草地の環境改善1(春季)
- ・周辺草地の環境改善2(春季・秋季)

(2) 捕獲・移殖

- ・個体の捕獲1(草刈前)
- ・個体の捕獲2(草刈後)
- ・個体の放逐(草刈後)

(3) 誘導(草刈・追い込み)

- ・対象事業実施区域(ヘリポート)内の草刈
- ・エコスタックの設置
- ・球巣周辺の草地追い込み

※陸生動物(カヤネズミ)の保護の観点から、位置図は非表示とする。

陸生動物（カヤネズミ）の環境保全措置の結果

(1) 環境改善（除草・草刈）【平成30年2～3月・11月、平成31年4月、令和元年11月】

※陸生動物（カヤネズミ）の保護の観点から、位置図は非表示とする。

※陸生動物（カヤネズミ）の保護の観点から、位置図は非表示とする。

・ セイタカアワダチソウ優占からチガヤ優占の群落に遷移
▶【今後】営巣適地として維持・管理

群落名	面積 (m ²)					
	草地①			草地②		
	2018年	2019年	増減	2018年	2019年	増減
チガヤ群落【カヤネズミの営巣適地】	0	715	715	0	1,448	1,448
チガヤ-セイタカアワダチソウ群落	12,264	11,145	-1,120	2,250	695	-1,555

陸生動物（カヤネズミ）の環境保全措置の結果

(2) 捕獲・移殖 【平成30年2～4月】

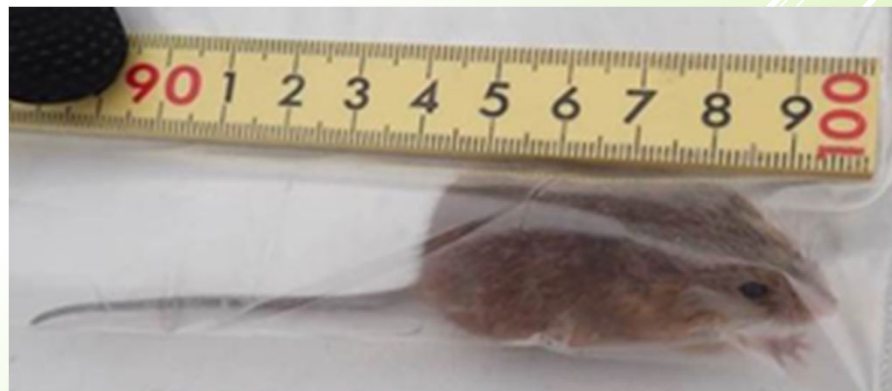
※陸生動物（カヤネズミ）の保護の観点から、位置図は非表示とする。

- ・環境保全措置「(3) 誘導」（対象事業実施区域（ヘリポート）内の草刈）の実施により、球巣周辺の草地へ追い込み、周囲へトラップを設置して捕獲。
- ・トラップ調査は、計3回（11日間）実施（トラップ数：合計1,613個）



- ・オス10頭、メス5頭の計15頭を捕獲
- ・捕獲個体は、草地①に放逐(移殖)。

▼捕獲個体（メス）



- 環境保全措置（環境改善、捕獲・移殖等）の実施による効果・影響の有無を確認した。
- 事前調査の実施により、周辺の生息環境への定着状況の検証及びさらなる環境保全措置の検討・実施に資する情報を収集し、影響の低減に努めた。

飛行場の存在に係る動物（哺乳類：カヤネズミ）の調査手法

調査項目	陸生動物（カヤネズミ）
調査方法	事前調査項目に係る環境の状況 ・目撃法、フィールドサイン法（個体数、 巣等を記録）、現地踏査（相観植生）
調査地点	対象事業実施区域（ヘリポート）の周辺においてカヤネズミを移殖・移動させた草地環境
調査時期及び期間	①事前調査（1年目：平成30年）：工事着手前 ～工事中 5月1日・28日、6月15日、7月27日、8月29日、 9月28日、10月23日、11月13日 ②事前調査（2年目：令和元年）：工事中 ・春季： 5月9日 ・夏季： 8月1日 ・秋季：10月1日

※陸生動物（カヤネズミ）の保護の観点から、位置図は非表示とする。

陸生動物（カヤネズミ）の事前調査の結果

- 平成30年度は、球巢の確認なし。
- 令和元年度は、2個の球巢を確認(非繁殖も1個確認)。
(10月1日:①、11月22日:②)

※陸生動物（カヤネズミ）の保護
の観点から、位置図は非表示と
する。



▼球巢①周辺の状況（営巢適地）



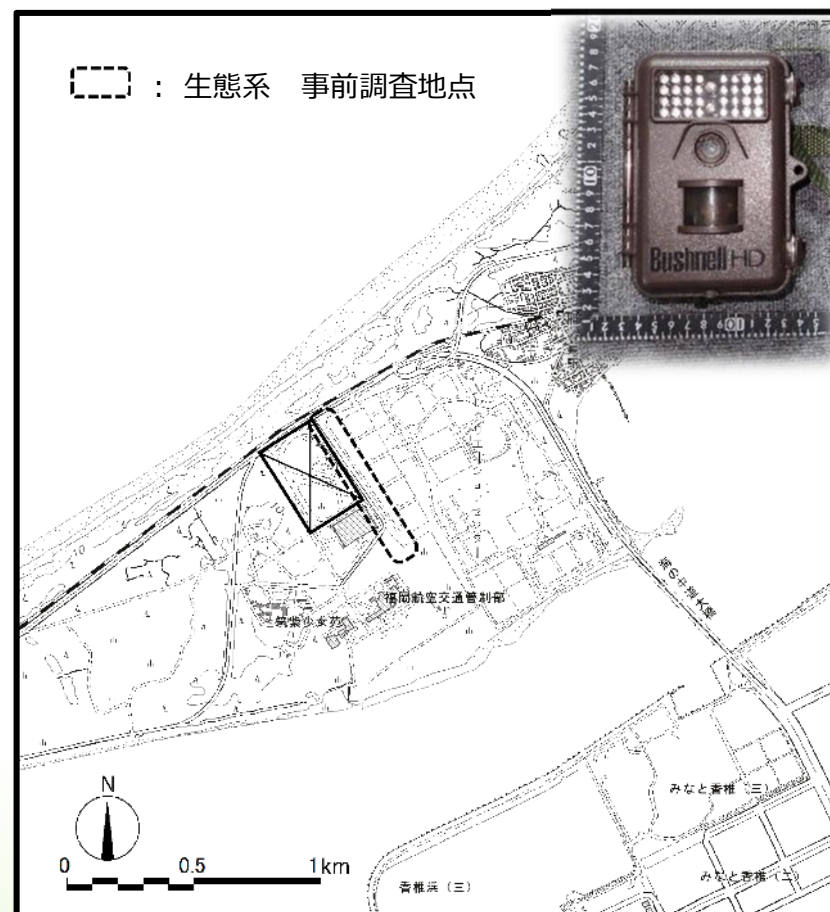
▼非繁殖の球巢（放棄）



- 工事着手前（事前調査1年目）、工事中（事前調査2年目）における動物の移動経路の利用状況を確認した。
- 事前調査の実施により、動物の移動経路の利用状況の変化の検証及びさらなる環境保全措置の検討・実施に資する情報を収集し、影響の低減に努めた。

飛行場の存在に係る生態系の調査手法

調査項目	生態系
調査方法	事前調査項目に係る環境の状況 ・無人撮影法 (無人撮影装置による撮影、室内分析)
調査地点	対象事業実施区域（ヘリポート）の東側アクセス道路沿いの緑地帯及びその周辺
調査時期及び期間	①事前調査（1年目：平成30年）：工事着手前 ・冬季：2月16日～3月21日 ・春季：4月2日～5月7日 ・初夏：5月28日～6月29日 約30日間 ②事前調査（2年目：令和元年）：工事中 ・春季：5月9日～6月12日 ・夏季：8月1日～31日 ・秋季：10月1日～31日 ・冬季：1月1日～31日 約30日間



生態系の前調査の結果



【確認種】

- ①事前調査1年目(工事着手前) 3目6科8種
- ②事前調査2年目(工事中) 4目6科8種

【変化について】 ①⇒②の変化

- ・アライグマを未確認
- ・イノシシを新たに確認
- ・確認個体数は、いずれ種も減少傾向

▶(推察)工事事務所の存在による人の出入りがあるため、一時的に減少している。

▼現地確認個体



タヌキ



ノウサギ



ニホンアナグマ



テン



イノシシ